

目次

CONTENTS

- 004 寒い国から来たウェア コートは北国で進化した
- 006 コートの世界地図
- 008 コートには男の意地が込められている 文/馬場啓一
- 012 トレンチ(塹壕)で耐久性を発揮したトレンチコート
- 031 ダッフルコート
- 051 ビーコート
- 052 ワークウェアだったビーコート 文/菊月俊之
- 069 ステンカラーコート
- 082 僕のコートスタイル 文/青柳光則
- 084 バブアーコート
- 100 デザイナー吉田十紀人さんインタビュー
- 108 デザイナー林芳亭さんインタビュー
- 110 マッキーノコート
- 120 ウールリッチ・アークティックパーカ
- 122 ダウンジャケット
- 128 コート百景
- 152 モッズコートの考察
- 160 奥付

参考文献:

- ・ American Costume, 1915-1970
- ・ Work Wear Vol.1~Vol.6
- ・ ARMY AND NAVY 1931-1932



反逆のライフスタイルとしてモッズの若者が愛した 1951年米軍採用のミリタリー・パーカーM-51

第二次世界大戦後の世界は新しい対立構造が支配した。東西冷戦、つまり自由主義と共産主義という新しい価値観のぶつかり合いが始まったのである。こうした動きは国際情勢ばかりではなく、若者たちの思想やライフスタイルというシーンでも目立つようになってきた。旧来の保守的な価値観に対して音楽や芸術、ファッションといったカルチャーに影響された若者たちの対立が、厭戦気分も手伝って、イギリスやアメリカで起こり始めた。アメリカではビートニクスやヒッピー、イギリスでは『モッズ』である。

モッズが現れたのは1950年代後半から60年代中ごろにかけてのロンドンで、若い労働者がその中心だった。学生や芸術家が中心とは異なるが、その分、思想そしてバイクというライフスタイルモッズ(Mods)はモダニズム葉であり、旧来の価値観との決であった。また“ロッカーズ”とい対立を抱えていたことも、モッズスタイルは、独特のカスタムされスクーターに、髪を下ろしたモーツ、フレッドペリーのポロシャツ、だった。面白いのはスクーターにの従来のバイクではスーツが汚ーターサイクルはシングルや2サオイルで服が汚れるのを避けたな排気量のモーターサイクルにのぶつかり合いを呼んだのだからソウルなど、アメリカの黒人音の事情は映画「さらば青春の光



HOUSTON No.5409
M-51パーカー

1960年代英国で流行したモッズ・スタイルの一部、通称「モッズパーカー」の名で親しまれた、ミリタリー・ジャケットコート。その後日本でもTVドラマ、映画などで大ブレイクしたパーカー。実物は朝鮮戦争～ベトナム戦争初期まで防寒着またはレインコートとして主に使用されていた。ポケットは手袋のままでも開閉しやすいスナップボタン式。フロントはジッパーとスナップボタン留め。ウエストサイズや前後の裾にも調整用コードが配されボディにフィットさせ、風の進入を防ぎ防寒性を高めている。ボディ部はアクリルボア、袖部がキルティングの着脱可能なインナーライナーが付属し、2シーズンの使い回しができる。価格1万7640円 問ファントム通販部 Tel.042-472-6411

中心だったアメリカでのムーブメントの主張が研ぎ澄まされていた。(Modernism)から派生した言別を主張する象徴的な呼び名う革ジャンにバイクの一団とのの特異性といえるだろう。彼らのたバスパやランプレッタといったズ・カット、細身の三つボタンのスミリタリー・パーカーといったもの乗る理由で、エンジンがむき出されるから、というもの。当時のモイクルが主流で、マフラーからのためだ。そうしたスタイルが、大き乗るロッカーズたちとの価値観う。ナイトクラブにたむろし、R&B楽を好んで聴いていた。その辺(Quadrophenia)」に詳しい。

モッズが着ていたミリタリー・コートの後を受けて米軍の主力品となったコートで、戦後大量に放出品が出回っていた。おそらくその価格の安さが、労働階級の若者たちにとっては魅力だったのだろう。ミリタリーコートにスーツ、スクーターという組み合わせは、いまの時代でもなかなかお洒落なチョイスだと思う。

ちなみに、デビュー前のビートルズは革ジャンにリーゼントのロッカーズ・スタイルだった。アストリット・キルヒヘア(ビートルズを初めて撮影した女性プロカメラマン・ドイツ人)の写真を見るとよく判るが、彼女の影響でモッズ・ファッションに近いマッシュルームカットに襟なしジャケットといった、斬新なスタイルでデビューしたとも言われている。(文・編集部)



Photo=Everett Collection/AFLO